

平成23年 2月23日

環境省北海道地方環境事務所長
吉井雅彦様

羊蹄山管理保全連絡協議会
会長 俱知安町長 福島世二



羊蹄山管理避難小屋再整備規模等の提案について

春寒の候、貴職におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、当協議会の運営につきましては、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昭和47年10月に建築され、老朽化が顕著となっている羊蹄山避難小屋の再整備に向けて、環境省主催の「羊蹄山避難小屋再整備基本計画検討会」が昨年11月1日と12月17日に2回開催され、2月25日に開催予定の第3回検討会に先立って、環境省としての羊蹄山避難小屋再整備プラン（建築面積33㎡、延床面積66㎡）が当協議会構成5町村に事前提案されたことに伴い、昨22日に羊蹄山管理保全連絡協議会臨時総会を開催いたしましたところであります。

当協議会といたしましては、環境省ご提案の避難小屋再整備プラン（建築面積33㎡、延床面積66㎡）では建築面積が現在の避難小屋の約4割まで縮小となり、登山者等の安全確保に必要な規模とは認め難いところであります。

当協議会の避難小屋管理人をはじめ、構成町村長の意見をもとに、再整備にあたって最低限確保しなければならない羊蹄山避難小屋再整備規模等について、下記の通り取りまとめましたので、ご提案申し上げます。

なお、羊蹄山避難小屋は、築38年以上が経過し、老朽化が顕著となり、特に南側（真狩側）の壁面の歪み等の危険箇所について、登山者の緊急的な安全確保のため、現在の避難小屋の所有者である北海道により実施されましたが、今回の補強工事は一時しのぎ程度の工事に過ぎないため、早急な建替えが急がれることに何ら変わりはありません。

羊蹄山避難小屋再整備に向け、23年度実施設計、以降速やかに本体建築に着手すべく鋭意事業推進方よろしくお願い申し上げます。

記

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. 羊蹄山避難小屋再整備規模
（最低限必要規模） | 建築面積48.6㎡（5.4m×9m）
延床面積97.2㎡ |
| 2. トイレ方式 | 土壌処理（TSS）方式（山岳トイレのチップ制導入）
※環境保全、登山道等管理上からも安易に携帯トイレの導入は当協議会として受入れられない。 |
| 3. その他 | 参考図面等別紙添付する。 |



羊蹄山避難小屋再整備規模等の考え方

羊蹄山避難小屋は昭和47年10月に建築され、築38年以上が経過し、老朽化が顕著となっているが、羊蹄山麓5ヶ町村による羊蹄山管理保全連絡協議会が、今日まで継続して、積雪期を除く登山シーズンに管理人を避難小屋に常駐させ、登山者の安全確保、避難小屋の維持管理をしてきたことが、小屋の老朽化を軽減し、今日まで建替をせずに維持されている大きな要因と考えられる。

羊蹄山避難小屋の管理体制における、この地域の特性を充分考慮のうえ、環境省として羊蹄山避難小屋再整備規模等を決定していただきたい。

- ① 収容人員・・・環境省提案は1.14㎡/人で52人。1.14㎡/人では登山者のリュック等の荷物を置くスペースが不足しているため、宿泊を要する避難登山者には1.50㎡/人（第1回検討会環境省資料30ページ：他事例の避難小屋から、収容人員1人当たりの必要面積の平均値）で52人を収容できる78.925㎡が必要。

また、羊蹄山山頂周辺の登山者滞留人数（60～120人）の内69人程度（1.14㎡/人）を天候急変時に一時的に収容できる。

- ② 土間・・・・・・環境省提案プランでは1階6.575㎡、2階は通路部分2.025㎡のみ。荒天時に団体で避難小屋を利用する際の土間スペースが不足している。また、入口附近の土間には、洗面台や貯水タンク、コークス置き場、発電機等の避難小屋管理備品を置いている。避難小屋再整備後も、引き続きこれらの管理備品等の保管場所が必要となる。

- ◎現在避難小屋にある備品・・・毛布約100枚、寝袋約100個、発電機、ランプ類、灯油予備、ガソリン予備、スコップ、ペンキ、業務用無線&アンテナ、大工道具、ロープ類、鍋類、電気関係備品、非常用医薬品、トイレトペーパー、予備電池、雑記帳&筆記用具、管理人用食料ストック、登山バッジ、登山者忘れ物（1シーズン保管）

- ③ 管理人室・・・・・・現在の小屋と同じ広さは必要。

- ④ 収納庫・・・・・・環境省提案の1.305㎡では不足。各階に2.025㎡は必要。

- ⑤ トイレ・・・・・・現在の小屋の3箇所の内1箇所は物置として利用しており、現小屋のトイレ2箇所分の広さは必要。

- ⑥ ストーブ置き場、2階冬季出入口、雨水タンク等・・・・・・詳細は今後検討決定していく。

羊蹄山避難小屋再整備規模

①現避難小屋

構造：木造（校倉造）2階建て（トイレ付）

基礎：独立基礎コンクリート

規模：建築面積 77.76㎡（2階面積：36.58㎡）

延床面積114.34㎡

収容人員：100名

②環境省提案による避難小屋再整備規模

規模：建築面積 33.00㎡

延床面積 66.00㎡

③羊蹄山管理保全連絡協議会として提案する避難小屋再整備規模

規模：建築面積 48.60㎡

延床面積 97.20㎡

1階面積		2階面積	
フロア	22.275㎡	フロア	36.450㎡
土間	12.150㎡	(ベッド)	(20.250㎡)
管理人室	6.075㎡	土間	8.100㎡
収納庫	2.025㎡	収納庫	2.025㎡
階段	2.025㎡	階段	2.025㎡
トイレ	4.050㎡		
計	48.600㎡	計	48.600㎡

フロア面積計		収容人員	
		1.14㎡/人	1.50㎡/人
1階フロア	22.275㎡	19人	15人
2階フロア	36.450㎡	32人	24人
ベッド	20.250㎡	18人	13人
計	78.925㎡	69人	52人

※収容人員1.14㎡/人（上を向いて寝る）第2回検討会環境省資料3ページより

1.50㎡/人（他事例の避難小屋から、収容人員1人当たりの必要面積の
平均値）第1回検討会環境省資料30ページより